

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成27年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	秋田大学	申請大学長名	小川 信明（学長代理）
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	小川 信明
整理番号	001	プログラムコーディネーター名	柴山 敦
プログラム名	レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

#### 【プログラムの目的】

本プログラムは、資源の専門性と応用力、実践力を修得したグローバルリーダーの育成を目的とし、近年勃発したレアアース問題や資源の偏在性、生産環境の悪化といった21世紀の資源開発が抱える課題に俯瞰力をもって挑める人材、すなわち資源分野を牽引する総合力と専門知識を備え、英語力、異文化理解力を含めた国際的視野と独創性豊かな考察力、課題解決力、資源リテラシー、政策立案能力等を身に付けた「資源ニューフロンティアリーダー」を養成する。

#### 【大学の改革構想】

秋田大学では、資源学教育の重点化と教育研究プログラムの強化を行い、我が国を代表する資源学教育研究拠点を形成している。国際的な活動では大学院の英語コース化や海外協定校からの積極的な留学生確保を推進しているほか、国際資源学部を平成26年度に新設し、平成28年度には国際資源学研究科を新設するなど、リーディング大学院と直結する教育研究基盤を構築している。これら資源学教育に関する戦略的な取組は、「資源分野におけるナショナルセンター機能を強化し、世界で活躍するグローバル人材を、実践力・応用力・英語力を兼ね備えて育成する」ことを主旨とした秋田大学の改革構想を具現化したものと言える。また、秋田大学が掲げる第3期中期目標・中期計画期間の改革構想「資源学分野を核とするグローバル化の推進」戦略と合致した点も特徴であり、本プログラムは改革構想の一翼を担う重要な事業となっている。

## 2. プログラムの進捗状況

プログラム統括会議及びプログラム運営委員会を中心に、プログラム全体が運営されており、定常的な活動を進めている。今年度は、コースワークの見直しによって、講義内容に合わせた科目群の統廃合を進めたほか、企業講師などによる科目の新設や演習科目の充実、改善を進めた。また学生の負担軽減とカリキュラムの実質化を目的に履修要件等の見直しを行い、研究科との連携によって実施細則の一部を改訂した。なお、平成27年度末現在、21名の学生が在籍している。

プログラムの指導体制については、学生1人あたりのプログラム分担者が2.3人に達し、日常的な研究指導からフィールドワーク等の共同調査、学生との面談に至るまで学生に目配りできるよう教員、事務局員を配置した。また、企業OBの実務家教員を講師陣に加えるなど、指導体制の構築を進めた。

今年度は、ベトナムで開発が有望視されている銅・金鉱床中のレアアース地質調査を行ったほか、カナダ地質調査所やケベック州エネルギー・鉱物資源局、カナダ国立科学研究所、ラバル大学等に所属する教員、大学院生等とともに日本国内で国際共同フィールドワークを行った。また、南アフリカの白金、ダイヤモンド鉱山を対象に、最新技術や開発ステージでの現地調査を実施するなど資源保有国での研究調査活動を行った。

その他、学生の主立った活動として日本地球掘削科学コンソーシアム（J-DESC）のIODP研究航海のメンバーにプログラム学生1名が選抜され（日本国内より4名）、2ヶ月間の洋上航海調査に参加したほか、世界的に権威のある学会「Society of Economic Geologists」の学生リーダーシッププログラムを、プログラム学生がリーダーとなって組織（Society of Economic Geologist Student Chapter）、著名な研究者を招聘した講演会や研究会などを合同開催した。

平成27年度は、博士後期課程3年生1名に対し、学位（博士）審査を実施した。学生が所属する工学資源学研究所の学位審査基準に加え、プログラム独自の基準を組み合わせて審査した結果、本プログラムで初めて修了生が誕生した。なお、当該学生は出身国（インドネシア）に帰国し、資源関連企業等への就職を目指して就職活動を行っている。

学生支援に関しては、13名の優秀なプログラム学生に対し奨励金を支給したほか、TAとして7名、RAとして5名を採用した。また、研究事業「若手チャレンジ&イノベーション研究事業」の公募を行い、5件の研究プロジェクトを採択するなど学生主導の研究を推進した。このほか、プログラム学生の国内外学会への参加および研究成果の公表、論文投稿等の指導を強化し、学術活動に関する積極的な支援を行った。

加えて国内外の資源系大学等から第一線級の研究者を招聘し、コース学生を対象に特別講義や研究指導の機会を設けるなど教育環境の充実に務めた。

国際シンポジウムや講演会を開催することで、プログラムの積極的な情報発信、優秀な学生獲得を目的としたプロモーション活動を行い、国内外に向けた広報活動を実施した。その他、メンター教員によるアドバイスやチュータリングを行い、研究活動の積極的な支援を行ったほか、学生の海外出張手続きを見直すなどプログラムの改善を進めた。

評価体制については、新たに2名の外部審査委員を加えた外部評価委員会を開催し、本プログラムの現状と実績、将来計画や課題・改善点等について助言、指摘を受けるなど次年度以降の取組につながる評価事業を実施した。